



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3423		
科目名	人権論		
担当教員	久保庭 慧		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	火 2		
講義室	1403	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・法学		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-H〔論理的思考力・批判的思考力〕理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省を持って、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 C1 倫理的思考・社会認識（10%） E1 学識と専門技能（50%） H1 論理的思考（10%） H2 批判的思考（10%） I1 理解・分析と読解（10%） I3 情報分析（10%）		
教員の実務経験	該当なし		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージと対応 3 発展期～4 定着期		
科目概要・キーワード	高校までの勉強で基本知識は知っていても、「国家」や「人権」といった考え方が現実社会で具体的にどのように機能しているかについて説明するのは、「大人」や「社会人」と呼ばれる人たちでも意外に難しいものです。この授業では、皆さん一人一人の「人権」を地球的スケールで保障しようとする国際人権法の基本知識をまずは概観し、こうして習得した知識を用いて私たちの生きる社会において生じている様々な問題を、国際人権法の視点から説明したり分析するという作業を行なっていきたいと思います。受講者数等の状況にもよりますが、教員と受講者、あるいは受講者同士の対話を重視しながら授業を進めていきます。 授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード：国際人権法、子どもの権利、ジェンダーと人権、障害者の権利、難民の保護、少数者の権利		
授業の趣旨	■副題 国際人権入門：人権保障の考え方の基礎を身につける		

	■授業の目的 「人権」という概念についての基本的な考え方を理解し、その上で、個別の国際人権条約に基づいて、具体的にどのような形で人権保障が実現されているかを理解し、説明できるようにすることを目的とします。 ■授業のポイント 最初に「人権」という概念の基本的な考え方、さらにそうした「人権」のなぜ国際的に（国際人権法によって）保障されることになったか、という歴史的展開を概観します。それを踏まえ、特に性、人種、障害、子供、少数者・先住民、難民といった個別の属性に焦点を当てて、そうした人々の「人権」が具体的にどのような形で、国際人権法によって保障されているのかを見ていきます。								
総合到達目標	「人権」という概念の基本的な考え方を身につけるために、その保障のための具体的な枠組み、制度について説明できるようになる。以上のような一般到達目標の下、以下3点を個別行動目標として設定し、これらの目標の観点から達成度を評価します。 ・「人権」概念の基本を理解し、その意義、特に国際的に人権を保障する意義について説明できるようになること ・その上で、具体的にどのような国際人権保障の制度があるかを説明できるようになること ・習得した知識をもって、現実の国際・国内社会において生じている様々な人権問題を法の観点から分析したりできるようになること								
成績評価方法	■毎回提出してもらったリアクションペーパー（授業に最後に提示する課題も含む）の内容に基づいて成績を評価します（70%）。 ■学期末に提出してもらったレポートの内容に基づいて成績を評価します（30%）。 ■（適用ルーブリック-割合） C1（10%）、E1（50%）、H1（10%）、H2（10%）、I1（10%）、I3（10%） （フィードバック方法） 毎回のリアクションペーパーを通じてみなさんからいただいたコメントには、翌回の授業にてフィードバックを行います。								
履修条件	特にありません。								
履修上の注意点	評価方法の項目にもありますように、リアクションペーパー100%の割合で成績を評価するため、毎回の授業への継続的な取り組みが最終的な成績評価にダイレクトに結びつきます。履修を検討している方はこの点を慎重に考慮の上、登録をするようにしてください。								
授業内容	<table><tr><th>回</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td> ①授業テーマ 授業全体のガイダンス ②授業概要 授業の内容、計画、成績評価、受講の際の留意点などに関する説明をとおし、授業の全体的な概要を理解する（E1）。 ③予習（120分） シラバスの内容を確認する。 ④復習（120分） 授業レジュメを見直し、授業計画や授業内容などについて確認する。 </td></tr><tr><td>2</td><td> ①授業テーマ 国際人権法の特徴と全体像の概観 ②授業概要 国際人権法の基本的な構造を把握するとともに、各国の憲法が担うべき人権保障を国際法でも行うのは何故かを説明できるようになる（E1、H1）。 ③予習（120分） 事前配布のレジュメに目を通し、冒頭のウォームアップ課題について考えてくる。 ④復習（120分） 授業レジュメを見直し、国内でも保障されている人権をなぜ国際的にも保障する必要があるのか、国際人権保障の発展の過程（歴史的経緯）に触れながらまとめ、説明する。 </td></tr><tr><td>3</td><td> ①授業テーマ 差別されない権利①：「平等」の基本的な考え方 ②授業概要 国際人権法上の「差別禁止」の位置付けと重要性を踏まえ、「平等」／「差別」の意味と展開について説明できるようになる（C1、E1、H1）。 ③予習（120分） </td></tr></table>	回	内容	1	①授業テーマ 授業全体のガイダンス ②授業概要 授業の内容、計画、成績評価、受講の際の留意点などに関する説明をとおし、授業の全体的な概要を理解する（E1）。 ③予習（120分） シラバスの内容を確認する。 ④復習（120分） 授業レジュメを見直し、授業計画や授業内容などについて確認する。	2	①授業テーマ 国際人権法の特徴と全体像の概観 ②授業概要 国際人権法の基本的な構造を把握するとともに、各国の憲法が担うべき人権保障を国際法でも行うのは何故かを説明できるようになる（E1、H1）。 ③予習（120分） 事前配布のレジュメに目を通し、冒頭のウォームアップ課題について考えてくる。 ④復習（120分） 授業レジュメを見直し、国内でも保障されている人権をなぜ国際的にも保障する必要があるのか、国際人権保障の発展の過程（歴史的経緯）に触れながらまとめ、説明する。	3	①授業テーマ 差別されない権利①：「平等」の基本的な考え方 ②授業概要 国際人権法上の「差別禁止」の位置付けと重要性を踏まえ、「平等」／「差別」の意味と展開について説明できるようになる（C1、E1、H1）。 ③予習（120分）
回	内容								
1	①授業テーマ 授業全体のガイダンス ②授業概要 授業の内容、計画、成績評価、受講の際の留意点などに関する説明をとおし、授業の全体的な概要を理解する（E1）。 ③予習（120分） シラバスの内容を確認する。 ④復習（120分） 授業レジュメを見直し、授業計画や授業内容などについて確認する。								
2	①授業テーマ 国際人権法の特徴と全体像の概観 ②授業概要 国際人権法の基本的な構造を把握するとともに、各国の憲法が担うべき人権保障を国際法でも行うのは何故かを説明できるようになる（E1、H1）。 ③予習（120分） 事前配布のレジュメに目を通し、冒頭のウォームアップ課題について考えてくる。 ④復習（120分） 授業レジュメを見直し、国内でも保障されている人権をなぜ国際的にも保障する必要があるのか、国際人権保障の発展の過程（歴史的経緯）に触れながらまとめ、説明する。								
3	①授業テーマ 差別されない権利①：「平等」の基本的な考え方 ②授業概要 国際人権法上の「差別禁止」の位置付けと重要性を踏まえ、「平等」／「差別」の意味と展開について説明できるようになる（C1、E1、H1）。 ③予習（120分）								

	事前配布のレジюмеに目を通し、レジюме内で提示されたいくつかの問いに対して自分の考え方を整理しておく。 ④復習（120分） 授業レジюмеを見直し、特に、「形式的平等」と「実質的平等」とはどのような考え方で、両者はどのように違うのか。具体例を挙げつつ説明する。
4	①授業テーマ 差別されない権利②：性差別の禁止その1 ②授業概要 国際人権法上の「性差別」の禁止の概要を、特に女性差別禁止条約の観点から説明できるようになる（E1、H1）。 ③予習（120分） 事前配布のレジюмеに目を通し、レジюме内で提示されたいくつかの問いに対して自分の考え方を整理しておく。 ④復習（120分） 授業レジюмеを見直し、特にレジюмеの冒頭および末尾に掲げた事例問題に取り組み、自分なりの結論を出してくる。
5	①授業テーマ 差別されない権利③：性差別の禁止その2 ②授業概要 国際人権法上の「性差別」の禁止に関して中心的役割を果たす女性差別禁止条約の課題と限界について説明できるようになる（E1、H1）。 ③予習（120分） 事前配布のレジюмеに目を通し、レジюме内で提示されたいくつかの問いに対して自分の考え方を整理しておく。 ④復習（120分） 授業レジюмеを見直し、特に「SOGI」という概念について、LGBT概念との相違に留意しつつ整理し、まとめる。
6	①授業テーマ 差別されない権利④：人種差別の禁止 ②授業概要 国際人権法上の「人種差別」の禁止の概要を、特に人種差別禁止条約の観点から説明できるようになる（E1、H1）。 ③予習（120分） 事前配布のレジюмеに目を通し、レジюме内で提示されたいくつかの問いに対して自分の考え方を整理しておく。 ④復習（120分） 授業レジюмеを見直し、特にレジюмеの冒頭および末尾に掲げた事例問題に取り組み、自分なりの結論を出してくる。
7	①授業テーマ 障害者の権利 ②授業概要 国際人権法上の障害者差別の禁止の概要と、「障害」概念の展開について、障害者の権利条約の規定に則して説明できるようになる（E1、H1）。 ③予習（120分） 事前配布のレジюмеに目を通し、レジюме内で提示されたいくつかの問いに対して自分の考え方を整理しておく。 ④復習（120分） 授業レジюмеを見直し、障害者権利条約上の「障害」概念について、障害の「医学モデル」と「社会モデル」というキーワードに留意しつつまとめる。
8	①授業テーマ 子どもの権利① ②授業概要 国際人権法上の子どもの権利について、その歴史的展開とともに、子どもの権利条約上の基本概念を説明できるようになる（E1、H1）。 ③予習（120分） 事前配布のレジюмеに目を通し、レジюме内で提示されたいくつかの問いに対して自分の考え方を整理しておく。 ④復習（120分） 授業レジюмеを見直し、子どもの権利条約上の基本概念である「子どもの最善の利益」「子どもの意見表明権」という概念を用いて、レジюмеの冒頭および末尾に掲げた事例問題に取り組み、自分なりの結論を出してくる。

9	①授業テーマ 子どもの権利② ②授業概要 第8回での学修内容を踏まえ、社会で生じている具体的な問題に対し、子どもの権利条約の観点から分析できるようになる（C1、E1、H1）。 ③予習（120分） 事前配布のレジюмеに目を通し、レジюме内で提示されたいくつかの問いに対して自分の考え方を整理しておく。 ④復習（120分） 授業レジюмеを見直し、いわゆる「ブラック校則」に対して、生徒の人権尊重の観点からどのような対応をすることが求められるかを、子どもの権利条約の観点に基づいて分析、説明する。
10	①授業テーマ 「文化」と人権 ②授業概要 国際人権法において「文化」がどのように位置付けられているか、またそこで生じる課題について説明できるようになる（C1、E1、H1）。 ③予習（120分） 事前配布のレジюмеに目を通し、レジюме内で提示されたいくつかの問いに対して自分の考え方を整理しておく。 ④復習（120分） 授業レジюмеを見直し、人権によって文化を保護する必要があるのはなぜか、一方で、人権を侵害するような文化的慣行に対してどのような対応が求められるかをまとめる。
11	①授業テーマ 少数者・先住民の権利 ②授業概要 国際的な少数者・先住民保護の取り組みがどのような歴史的展開をたどったか概観し、特に国際人権法における少数者・先住民の保護制度の概要について説明できるようになる（C1、E1、H1）。 ③予習（120分） 事前配布のレジюмеに目を通し、レジюме内で提示されたいくつかの問いに対して自分の考え方を整理しておく。 ④復習（120分） 授業レジюмеを見直し、国際法・国際人権法上の少数者・先住民保護がどのような課題を有しているかを、「自決権」の考え方に留意しつつまとめる。
12	①授業テーマ 国際法・国際人権法と難民 ②授業概要 「難民」の定義を含め、難民概念の多様性を把握するとともに、難民への処遇について、国際法・国際人権法上どのようなルールがあり、またどのような限界があるかを説明できるようになる（C1、H1、I3）。 ③予習（120分） 事前配布のレジюмеに目を通し、レジюме内で提示されたいくつかの問いに対して自分の考え方を整理しておく。 ④復習（120分） 授業レジюмеを見直し、国際法、国際人権法における難民の保護について、難民条約上の「難民」の定義と、条約上求められる国家の義務の内容について説明した上で、その問題点をまとめる。
13	①授業テーマ 国際人権法の実施措置 ②授業概要 国際人権法を効果的に実施するためにどのような仕組みが設けられているかを把握し、説明できるようになる（E1、H1、I1、I3）。 ③予習（120分） 事前配布のレジюмеに目を通し、レジюме内で提示されたいくつかの問いに対して自分の考え方を整理しておく。 ④復習（120分） 授業レジюмеを見直し、実際に日本に対して出された総括所見の内容を読み、具体的にどのような問題が指摘され、どのような対応をとることが求められているかを整理し、まとめる。

	14 ①授業テーマ 人権の基礎としての自己決定権 ②授業概要 近代以降の社会、特に人権保障の領域で重要視されてきた「自己決定」という価値が、現代においてどのように変化しつつあるかを説明できるようになる（E1、H1）。 ③予習（120分） 事前配布のレジюмеに目を通し、レジюме内で提示されたいくつかの問いに対して自分の考え方を整理しておく。 ④復習（120分） 授業レジюмеを見直し、特にアーキテクチャとナッジという概念に触れながら、それらが「自己決定」という考え方にどのような影響を及ぼしているかをまとめる。
	15 ①授業テーマ 「人権論」のまとめ ②授業概要 これまでの14回の授業での学習を総括し、人権論に関するまとめの考察を行う。学期末提出レポートについてのガイダンスを行う（E1、H1）。 ③予習（120分） これまでの授業レジюме全体を見直し、ここまでの講義全体の概要を確認しておく。 ④復習（120分） 授業レジюмеおよびここまでの講義全体を振り返り、国際人権法が全体として抱える課題についてまとめる。
関連科目	国際法（RMGT3451）、国際人道法（RMGT3453）、憲法と人権（RMGT1311）、犯罪と法II（RMGT3422）
教科書	授業はレジюмеをベースに進めます。授業の復習にあたって、より詳しく勉強したい方や授業でお話しできなかった点などを補足する際には参考書欄に記載した文献を利用して下さい。詳しくは授業初回で案内します。
参考書・参考URL	授業の復習にあたってはさしあたり次の文献を利用してください。 ・川島聡、菅原絵美、山崎公士『国際人権法の考え方』（法律文化社、2021年）ISBN：9784589041449 ・横田洋三（編）『新国際人権入門—SDGs時代における展開』（法律文化社、2021年）ISBN：9784589041791 これ以外の参考文献については授業中に適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先：授業内で指示します。 ■オフィスアワー：授業前後の時間に対応します。詳しくは授業内で指示します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント10%；パブリックセキュリティ20%；グローバルセキュリティ60%；情報セキュリティ10% ■危機管理と法学とのバランス 危機管理学40%；法学60%

